明治四十二年三月三十日第三種郵便物認可　（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十三年八月五日（金曜日）　第四百七十四號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜報

國士金玉均氏（七）

國王に上りし書（承前）

能ふに清國にして眞に我が國の爲め計らんとすれば能く時勢に通曉し少しく智能ある者を選びて我國に送り之れを誘道すべき筈なるに事爰に出でず袁世凱の如き口尙乳臭にして時勢を辯せざる者を派遣して顧みざるは豈其何の意たるを解せざるなり袁世凱等は素と是計會の小人只管殿下と坤殿との歡心を得李鴻章に推薦せらるゝあらんことを望むものゝみ彼れ一身の爲めに計ることを能はず又何の暇あつて殿下の爲めに計ることを得んや臣愚昧と雖ども清國の大國にして且つ我れと唇齒の關係あり故に之れを相疎んずるの得策にあらざるを知る然れども殿下の奸臣は袁世凱の如き無賴の徒と結黨し國權を蔑如す是れ臣の見に堪へざる處也（略）然らば即ち如何にして可なるか唯外は廣く歐米各國と信義を以て親交し内は政略を改革して愚昧の人民に敎ふるに文明の道を以てし商業を興起し財政を整理するに在り即ち兵を養ふこと亦難きにあらざるなり果して能く斯の如くならば英國は便ち巨文島を還すべし此他諸國も亦侵略の念を絶つに至るべきのみ今や我邦の人口殆んど二千萬に過ぎ其物産の如きは設令人造の精品に乏しきも其天産物品に至つては之れを日本及び清國の北部に比して却て遙かに優る者あり（略）斯る固有の財源に富みながら舉て之れを他國に依賴せんとするは臣の悲みに堪へざる處なり臣誓て多年の見聞に據りて殿下に奏上する處あり殿下尙之れを記臆せらるゝならん蓋し今日我邦の急務は所謂兩班を芟除するに在り我邦中古以前國隆盛を極めたる時に當ては一切の器物産械皆東洋三國に冠たりしも今は總て廢絶衰亡し復た其痕跡を止めず是れ他なし兩班の跋扈專橫に因るなり人民一物を製すれば兩班官吏の輩恣に之れを横奪し百姓辛苦して錢鏹を積めば兩班官吏等來て之れを掠取す是に於て人民皆な以爲らく苟も自ら力作して食せんとする時は兩班官吏の爲めに其利を吸收せらるゝのみならず甚しきに至りては貴重の生命を失ふの恐れあり寧ろ農商工の諸業を棄てゝ危を免かるゝに如かずと（未完）

暴徒首魁の罪狀

暴徒首魁李周甫（三八）が京城中部磚洞に潛匿し大首魁延起羽の命にて京城の形勢觀望中なりしを先月十八日京城第二憲兵分隊員に逮捕せし事は既報の通りなるが其取調の内容を聞くに同人は近來に於ける首魁の一人にして明治四十年十月下旬より朴京濱と稱する暴徒首魁の部下に入り小隊長兼募集官を命せられ軍刀一挺を携へ部下數名を率ひ朔寧附近に於て暴徒三十名を募集し來たり其後は朴京濱の直接の部下全部を指揮し各地を横行良民を殺害し或は金品を强奪する等種々の惡虐を逞したる事實は各次項の如し

李周甫は明治四十年十二月下旬頃麻田郡北面々長鄭汝元に對し軍用金の强請をなしたるに鄭は之に應せざる爲め同面長を殺害したるものとす尙ほ明治四十二年九月頃暴徒首魁李愚錫と僞名し麻田郡江新面基谷里尹相吉に對し金穀强奪の目的を以て脅迫狀を送り尹相吉は恐怖し金は既に若干の金穀を準備し置きしも其當時は日本憲兵の行動激しきを以て遂に其目的を遂げざりし同年十二月頃再び尹相吉に對し前同斷の脅迫狀を發し遂に使嗾若干と金十二圓を强奪せり尙ほ其他の良民多數に對し脅迫狀を送り其大半を强奪したる者とす

明治四十一年十月下旬京畿道長湍郡中高浪津一村に對し軍令を發して金二百圓を强奪したるものとす同四十二年十月下旬京畿道麻田郡に於て麻田憲兵分遣所の憲兵と交戰し被告は右前膊に貫通銃創を左横腹に擦過銃創を受け右手は今尙ほ不具にして其際被告の部下なる李元良（三十二年）は戰死したるものとす

被告は昨年三月上旬頃京畿道高浪津憲兵分遣所の憲兵に逮捕せられ留置中留置場を破壞逃走し其後は暴徒大首魁延起羽小隊長となり各地を横行中昨年舊六月頃朔寧郡内に於て日本憲兵と交戰後逃走して開城郡附近に潛伏し居り尙ほ其後も朔寧郡兎山郡其他各地を横行して多數の民財を强奪したるものとす

一、證據

以上の證據具備せしを以て去二日京城地方裁判所檢事局に送られしと云ふ

韓國溫泉所在地（下）

鐵道管理局調査

咸鏡道
吉州郡　栗水里溫泉　郡邑の北三里に在り
同　郡　大寺洞溫泉　郡邑の西四里半
同　郡　乾者介洞溫泉　郡邑の西一里半
明川郡　黄津里溫泉　郡邑の西六里半

平安道
龍岡郡　溫井　郡衙所在地を距る三里於乙洞に在り
昌城郡　溫泉　城南三里溫井川の傍に在り
雲山郡　溫井　郡邑の東四里溫井川沙灘の上に在り
熙川郡　溫泉　郡邑の東五里元洪里に在り附近に名刹妙香山妙香寺あり
泰川郡　溫泉　郡の東一里半退羅山下に在り
成川郡　溫泉　郡西藥水山下に在り
陽德郡　草川溫泉　郡衙を距る七里
同　郡　甑田溫泉　郡北二里
寧遠郡　溫泉　東三里仇老波里に在り（完）

●本溪湖の製鐵事業

大倉炭坑が今回日清合辦組織に變更して大發展の準備あると共に豫て計劃の製鐵事業につきても着々其歩武を進めむとしつゝあり世間或は大倉組が未だ清國より確然たる鐵鑛採掘權を獲得せしに非ずと説く者あるも事實は然らず過般炭坑協商成立の際大倉に從來の投資額を否認せる清國側の要求に讓歩せし其報酬として鐵鑛に對する日清共同採掘權を得たるものにして未だ公然の認許なきも既に金坑及び廟溝附近の山地に於て嘗て露人經營時代の遺物たる舊坑に依りて其試驗的採掘を爲しつゝあれば近々同炭坑が合辦の實を擧ぐると共に鐵鑛採掘の公許を經たる上該事業は豫想外の大規模を以て着手さるべしと尙ほ今後の同炭坑は其稱號を日清合辦煤鑛公司と改むる由

○新刊紹介

▲實業の世界（七卷十五號）　三宅雪嶺博士の「得意時代と失意時代とに於ける人間の心得」など讀むべき記事饒し（一日發行東京芝區三島町同社十二錢）

▲滿韓の實業（五十六號）　眞面目な好い雜誌なり趣味は伴はぬかも知れぬされども實益はあり（八月一日發行京城大和町二丁目二九一滿韓實業協會二十五錢）

▲東京經濟雜誌（一五五三號七月三十日發行東京京橋區彌左衛門町七同社十二錢）

▲法政新聞（一週年紀念號七月二十五日發行京城廣川町五同社一冊十二錢五厘）

講談

大岡政談 越後傳吉

第三十九回　旭堂南陵講

差付けられて一目見るよりアッと驚いた傳吉 傳『ヤア證文と櫛がッ……』與『それから此所に越後縮が二反』傳『ハッ』與『エ、最前でございました、私の方でヤッと表を開けまして、掃除をしたかせんかといふまだ掛り前に遣て來ましてへイ私は實田村井上傳吉の從兄弟で彌藤次といふものでございます、傳吉が種々お世話になつて有難う存じます、就ては預け申した二百兩の金子早速今日入用で傳吉がお貰ひ申して來いと申しました、證據の證文と櫛、これは甚だ詰らない物でございますが、一斷ういかれ仙さんの平常着にでも、何うぞつて越後縮が二反に證文と櫛を持つて來られた、實は小旦那餘り取りに來るのが早いから、アヽア、乃公が二百兩預かつたのを矢ッ張り疑ふでござる、金子といふやつは使はれてしまつちやア何にもならぬと思つて取りに寄越したものかと斯ういつて實は小旦那を恨みながら二百兩の金子を持たしてやりましたが、ニコ〳〵笑つて、何度も禮をいつて歸りました』ヨロ〳〵と蹌踉めいた傳吉はバッタリと其所に平太つてしまつた 與『小旦那何うしました、また物がいへなくなつた……おせうしました 傳『ハイ、アヽねらいことになりました、足掛け六年滿五年の間汗あぶら絞つて蓄めた金子の三百兩中村屋さんみんな無くなつてしまひました 與『エッ、ちやア奪られたんですかね 傳『ハーイ 與『ちやア小旦那、マア急きなさいますな、さう氣力を落すことはございません、お前さんが取りに寄越したんでございませんか 傳『ハイ、盗人が家へ這入りまして、證文と櫛と正金の百兩まで奪られました 與『へエーイ早いね、小旦那、氣力は落さないで宜うございます、憚りながら閻魔と綽名を取つた與兵衛です、暍りの畜生野郎は二百兩の金子を持つて行つた、金子は渡しました、渡しましたが中村屋與兵衛閻魔の眼で睨らんであるんだ、お前さんの從兄弟の彌藤次となつて來た彌藤次と名前を變へて證文と櫛を持つて來た奴はこいつア傳吉どん、一通りの奴ぢやアございません、越後の國……先づお前さんの村方近邊の者といふとはチャンと私が眼を注てある、夫に就ては小旦那、立つ時には私がいひましたでせう、旅の留守宅にも旅偸人が附く、何うもお前さんとこのお宅が怪しいと私は思ふ、宅へ歸つた時の体裁から殘らず隱さないで小旦那いつて下さい、次第によつたらこの金は乾度取戻して上げますから 傳『ハイ、有難うございます、乃公ア村へ歸りました』與『ム、』傳『宅へ歸りまして戸外から覗くとおはやの伯母さんが……』與『お前さんの顏を見るなりア、傳吉どんお歸りか、マア〳〵懷かしい、よう無事な顏を見せてくれたと戸外へ駈出して來ましたか 傳『イーエ 與『どんな樣子だつたね 傳『酒飮んで御座つたと見ねて空た德利が三本ほど轉つて居りました、火鉢に凭れ掛つて居睡つて御座つた伯母樣、私の顏を見ると別に懷かしい風もございません、只お戻りかといふたゞけで、足を洗つて上へ昇れといひましたから、私が下駄を提げて流れへ足を洗ひに行きました 與『ハヽーン小旦那、お前さんは人が好過るからだ斯ういふところから考へなきやア不可ん、家の主人が六年の間金儲けに江戸へ行つて、久し振戻つて來りやアその不在に酒食つて泥醉つて居る、それも男なら兎もあれ女だ、もうこれ五十といふ年になりやア縮りもし旁々する年だ醉拂ひながらお前さんに下駄提げさして足を洗ひにやるなんといふのは全然愛情が違つてます、それこそ飛んで降て與れ前さんの草鞋を解いて足を洗つて與れるのが當然だ傳吉どん何ですかねお梅さんは何うしましたか』



東京電報

韓太子の其後

[illegible]

長沙暴動損害

[illegible]

工場案と貧民

[illegible]

伯林電報

露皇帝の行幸

[illegible]

西國大使召喚

[illegible]

土國陸軍擴張

[illegible]

倫敦電報

生駒艦長謁見

[illegible]

無線電信法案

[illegible]

滿鐵社債借替

[illegible]

●江原道公私學校數

[illegible]

▲井上勝子薨去

歐洲漫遊中の井上勝子夫人は倫敦に於て薨去したり(同上)

紐育電報

黒白人大爭闘

テキサス州に於ける黒白人の爭闘は益々激烈となり軍隊の派遣も何等効力なく死傷者數を出せり(同上)

鐵嶺丸沈沒の顛末

(大阪商船會社報告)

濟州島竹島燈臺より南西距離に在る廣島(千出[illegible]

二十二日は朝來霧有り咫尺を辨せず午後一時[illegible]得ず海上に假泊せるて以て拔錨前進を爲す通過する目的なりしに濃霧の襲來と共に島影を[illegible]ざるに至り再び投錨假泊七時三十分なり然るしく霽れ竹島附近なるを以て拔錨前進を始むり時に七時五十四分也伊藤船長は即時各員降下準備をなさしめ先を要するを以て引率當りしも患者の人員點呼便乘者の患者を移乘せ乘第一號艇には直ちに便乘者の一部及船員のめ次に第二號艇には前一部に移乘せしめ次に等船客及び一等船客の第二號艇には三等船客三等乘客の一部及海員たる船客と協議して乘本船員は移乘せず次に等船客中婦人の殘部及本船員の一部移乘し本等運轉士機關長、一等關士、其他下級船員及[illegible]殘れり

[illegible]底に當り僅かに微動を[illegible]程度なるを以て毫も喧從つて端艇へ移乘の際なかりき

[illegible]物は四百八十九噸にし[illegible]を主とし他に陸軍御用郵便物は通常五十三個[illegible]りたり

統監の記者招待

[illegible]午後七時より在京新聞[illegible]地新聞特派員を統監邸に[illegible]を催し其際今後の施政[illegible]

●助役不採用に決定

[illegible]藏氏を助役に採用する件に就き協議したるが可否の議論紛々たりしが遂に不採用に決したりと

六〇枚

●製糸傳習所の開設

[illegible]方針に就き一場の演説を爲し相互の意志疏通を計るべしと云ふ

慶北星州養蠶傳習所は天候の不順に逢ひ飼育上一時困難を覺へたるも蠶兒は頗る健全なる發育を遂げ繭は前首尾能く上簇を了へたるが更に概要左記の要領を以て製糸傳習所を開設せんことを企圖し過日來熟議を凝したる結果之を設立するに決定したり經濟上よりせば經營者に利益なかるべきも製糸業は早晩必ず起る可き事業にして傳習事業擴張てふ方面より觀察するときは大に奬勵を要すべき事業なるを以て遂に事業に着手せり

一、開設期間、七月十五日より十月十五日に至る三箇月間

一、傳習生人員は十名(現在)とし昨年の修業生並に一般希望者より募集し猶希望者あるときは増員す

一、生徒の食費は無償にて傳習所之を負擔す

一、學科は座繰製糸法一班屑物整理法一班にして毎日一時間宛とす

一、實習科目は座繰糸、異綿製造、細製糸玉綿製造とす

一、實習科としては春繭十三石六斗二升夏繭三石五升秋繭二石五斗合計十九石六斗二升なり

一、器具は農商工部より配附せられたる揚返一臺及び座繰八臺にして内二臺は農商工部の配附に係り六臺は今回新調したるものなり

●平南線路の開通期

平南線道工事近況に就き同線路の引延ばし工事は八月中を以て全く平南間を結合し同時に建築材料運搬用機關車附列車の運轉を開始すべき旨は既報せしが右は其後工事意外に進捗し去る一日迄の工程に於ては平壤を基點に既に二十七哩の地點迄線路の敷設を了すると共に材料運搬用機關車付列車の運轉を爲すに至りたるが本月十日頃迄には全線路の敷設を了り全く材料運搬用機關車付列車の運轉を爲すを得る趣なり而して全線に於ける營業列車を運轉する迄は尙線路面に於ける砂礫の塡充其他各驛停車場同附屬官舍等に關する工事の充分の串に至らさるものあれば之が爲め今後猶多少の日子を要すべしと

●振替貯金の好成績

平壤郵便局取扱に係る振替貯金加入者の數を聞くに目下の處二十名内外の趣きなるが之を韓國に於ける大体の上より見る時は右の設備を爲してより以來頗る好成績をなし居り即ち最初之を設けたる際に於ける豫定にては全体に於て二百名の加入者を得れば好成績とすべき事になり居りし處意外にも其後加入者の數を増加し目下の處にて以三百四五十名の多に上り豫定加入者數の七割を增加する良成績を收めつゝあり

●清國密貿易船捕拿

清國榮城縣の張慶雲外三名は義瑞興と云ふ帆船に乘り組み金巾、アンペラ、麻布、燒酎、清國葉煙草、拐附木、食鹽、麥粉其他雜貨類を積みて全南智島附近の各島を巡航して密貿易を爲しつゝありしを去月二十一日木浦警備船第五號艇の發見する所となりて捕拿せられたり因に張慶雲は每年此近海に來り密貿易を爲し海草を買收して歸り居るものなりと

●參與官會議臨時會

四日午前十時より統監邸に於て臨時參與官會議を開き山縣副統監も出席したり當日は臨時會議なるを以て時節柄重大事件にても起りたる如く揣摩する者あるも右は今後各部の連絡を一層密にする爲めに事務の打合を爲したるに過ぎずと云ふ

KOREAN PENINSULA.

AS VIEWED BY A FOREIGNER.

外人の視たる半島

一外人記述

▲希臘、伊太利、に非ず、瑞典、那威に非ず、東洋のバルガン、之れ列國人が半島コレアに附したコンプリメンタル、ネーム だ、而かり半島の上下は過去三十年間不幸にして此名稱に實を伴はせべく勉めた。

▲禍なるかな半島、彼女は日清戰爭を生むだ、亦日露戰爭をも生むだ、併し彼女は之に因つて何物を得たか。

▲半島國を呪つた者は半島國ソレ自身だ、一千五百萬の人口と八萬二千方哩の領土とより成れる彼女は獨立を捨てた、ソーして日本帝國の保護國となるべく彼女自身を餘儀なくした

▲物窮すれば通ず、半島が日本帝國の羽翼の下に入りしは新運命を開くが爲だ、新運命とは何ぞ、之れ半島民が善政善治に仍つて世界共通の幸福を享受する爲だ。

▲記者は思はず過去の追想に耽つて下らぬ談義をした、談義の長きは讀者諸君にとつて迷惑の事ださらば次號より順を追ふて余の見たる半島を描かう。

●韓人巡查補の成績

警務局時代の巡查は日韓人共同等なりしが警務統一以來韓人巡查は巡查補と稱せられ補助憲兵と同資格に下れるの觀ありしより其感情如何かを憂へられたりしも多年訓陶の効空しからずして孰れも謹愼柔順に勤勉し成績上何等惡影響を見ずと云ふ

●同仁會と慈惠醫院

韓國に於ける同仁會の事業は平壤及び大邱に於ける病院を始めとして各所に醫師着護婦等を配置せるもの百有餘名なるが其筋にては今般是等の醫師に代ゆるに軍醫を以てする筈なり

●江原道地方の農況

插秧時季に於て移植不可能の狀態にありし江原道各地の乾田は先月八日次以來の降雨にて全部其の移植を終へたるに其の後雨量適順ならざる爲め昨今の狀況にては水田は平年作の約一割位減收の見込みにて畑は反對に平年作以上收穫を見るならんとか尙勿論農作物に至る迄て一般被害尠なく今後さへ氣候適順なれば本年の農作は概して良好なるべしと

●中樞院官制の改正

光武九年勅令第十二號を以て發布せられたり中樞院官制中第十條六人を七人に改正せらるゝ旨勅令第四十一號を以て四日官報に發表せらる

●練習艦隊碇泊期間

八代司令官の率ゆる練習艦隊淺間、笠置の兩艦は五日午後五時大連より仁川に來航五日間碇舶の上來る九日午前鎭海灣に向け出港する豫定なりと

●米國軍艦仁川拔錨

仁川港碇舶中の米國東洋艦隊旗艦チヤーレストン號及びニユウオールレアンス號は四日午前九時拔錨齊島に向ふ

●教育俱樂部の開會

京城教育俱樂部にては四日午後八時より京城商業會議所樓上に於て教育俱樂部を開會し加古法學士の講話餘興には講談琵琶ありたり

●郡守の資格審査會

内部に於ては去る二日午後より郡守の資格審査會を開會したり

●又々二紙發行停止

雜誌朝鮮並に韓字新聞の皇城新聞は二日發行停止を命ぜられたり

●●●●●●●●

●岡崎社長東上期 日韓瓦斯電氣會社專務取締役岡崎遠光氏は同社總會出席の爲め來る七日出發東上すべしと云ふ

新聞通信發行停止に付

朝鮮日報日韓通信皇城新報及雜誌朝鮮が今回一時に發行停止の厄に遭ひたるは氣の毒なる次第なるが右に就き某當局者の談に因れば雜誌朝鮮の停止は別なるも二新聞一通信の停止は其筋より掲載禁止を命じたる記事を強いて掲載し恰も故意に其筋の命に悖りたるやの觀あるを以て其筋にても默々に附する能はずのみならず新聞規則に照らして制裁を加へたるものなり云々

民團債と東拓社

京城民團にては豫ての希望たる十三万六千圓の團債借換及元龍山民團の債務三萬餘圓の借換計劃を立て東拓會社に向て交涉中なりしが同社も其希望を容れ五箇年据置き十箇年償却の事に内約整ひ其結果理事官を經て統監府へ稟申せしに詮議相成らず目下行惱の姿なりと而して元龍山民團の團債は年一割の高利なれば至急借換の必要あり且つ龍山には學校新設の既定計劃あるも之が爲めに一頓挫を來せる由なり

●鴨綠江の水運狀況

韓清兩國の間に流るゝ鴨綠江は延長百數十里にして其半程は優に戎船を通し又其殆ど大部は舟筏を流すに足れるも韓國人は船舶を所有する者甚だ少なく僅かに全數の約十分の一に過ぎず他は悉く清國人の所有に屬するものにて航行の船舶は獨木船より三百石積の戎船なるが共に風力又は潛力に依るを以て下航は概して航行容易にして且航程速かなるも逆航の場合は風の方向に依り時としては全く曳船の方法に依らざる可らざることあり而して航行の船舶が積載の量は外岔溝門子迄は百石内外長甸河口迄は百二十石迄のものを遡らしむることを得可く尙水量充分なる時は楡樹林子迄百石内外の船を遡行せしむるを得べし獨木船は主として韓人の專用に屬するものにて兩岸の往來又は近距離の交通に際し貨物を積載すること能はず要するに本江を航行して安東縣に往來するものは一箇年八千隻乃至一萬二千隻の多きに達し江を遡りて上流に至るもの三十隻を下らず每年解氷は三月下旬より十一月上旬まで結氷前に至りて悉く去りて江上亦船影を認めざるに至ると云へり

●慶尙北道養蠶良好

昨年度韓國政府は蠶種改良の目的を以て日本蠶種框製蠶種及桑苗等を配付したるは既報の如くなるが其の後蠶業盛績一般に良好なりしが今慶尙北道に於ける最近調査の狀況を聞くに昨年度同地蠶種配付高七百八十二枚桑苗一万本の配付を行ひたるに何れも其の成績頗る佳良にして本年度は蠶業傳習所五箇所を增設し農商工部又は地方費の補助を受け又た一方稚蠶共同飼育所は本年春季より一躍十八箇所增設を見たり而して蠶種は何れも地方費を以て購入し農商工部配付のものを合せて三千百五十枚を配付し又た地方費を以て桑苗十三萬八千本を購入無償配付を行ひ以て同道に於ては一般各道の蠶業模範地たらん事を希ひ大に奬勵し居るは快事也

●全北地方最近狀況

全羅北道の各地に於ける最近の狀況を聞くに客月初旬以來の降雨にて昨今已に七分通りの插秧を終へ尙は不日全部插秧し得べき見込にて農民の人氣回復せり而して襲きに其の筋より配付されたる諸種の種苗は播種栽培の宜しきを得ざる爲め枯死せるもの尠からざるも桑苗に至りては頗る良好なるを以て同地人民は一般に桑樹を好愛し未來の蠶業[illegible]

●平壤各銀行の狀況

平壤各銀行に於ける本年上半季の決算回收狀況を聞くに本年は例年より回收大に後れ昨今ポツ〳〵其回收を見るに至りたる由なるが今其原因如何と云ふに本年は米價の內地に比し非常に高價なるより貯藏韓人は何れも將來一段の高値を豫期して容易に手放さず且つ昨年は黄海道は豐作なりしも平安道一帶は不作なりしより米產地として一層賣惜みの念を高からしめたるを以て本年度の作況如何の見定め付かざる以上は之を賣放つ者なかりしも目今の所にては本年の米作も先づ相當の收穫を見んとする狀況なるを以て韓人も今は徒らに貯藏すべき時機にあらずとし漸く手放す者多きを加へたるより其代金は轉じて日本輸入商の手に戻り各銀行共其回收を見るに至りたる次第なりと

●日韓瓦斯社監查役

日韓瓦斯電氣株式會社は七月三十一日を以て第三期決算を了したるを以て其監查の爲め同社監查役伊藤幹一平澤道次の二氏は四日午後八時より着驛入京し三日間天眞樓に滯在の筈

●密陽農作狀況

慶南密陽旗範田に於ける稻の發育程度を昨年大暑當日の生育狀況と比較するに草丈に於て一寸二分短く一株平均九本餘の減少なり株張亦昨年に比し半數の成績を示すは是れ全く過日來降雨の結果日照少く地溫低きに依るものとす然れども今後氣候適順ならば恢復するに至るべし▲稻作● 今後氣候適順なるを得ば昨年以上の收穫を見るに至るべし大豆生育不良にして枝少く水溫低下の爲め枯死せるもの多く今後天候順調となるも結實不充分にして多少の減收は免れざるべし

▲煙草● 是又發育不充分にして雨濕の爲め枯死するもの多く天候恢復して晴天となるも多少の病枯死は免れざるべし其他の果樹蔬菜に在りても亦不結果にして果樹の如きは落果多く蔬菜に在りては降雨の爲め開花を妨げられ結果不充分なりと云ふ

公人私人

▲市原晴雄(大阪商船鎭南浦支店長)三日入京不知火へ

▲入江清江(水原農林學校教授)入學申込所三日水原へ

▲吉武榮順(島根縣中學校教授)同釜山[illegible]

龍山通信

(四日 支局報)

▲サテモ去程に一時龍山仁川の人々を驚かせたる麻浦の船橋は韓人渡船業者との競爭に打勝けて頻ろに至りては渡橋者皆無となりし爲め夫れでは無料にする程にと渡橋を勸むれども且つ弗つ人氣が無くして困り拔いた揚句去日內部へ韓人渡船の差止めを出願せしに夫れも罷りならぬと却けられ經營者は閉口罷り在る由ダカラ云はぬ事か仕事が惡るいのでは無けれども時が惡るいのなり吾等の意見に聽かねば悟うなるものぞと知らせたさに通信すること爾り

▲來る十月には民團議員の總選擧ある由なるが龍山新市街居留者中村井某、現議員渡邊某等は是非皆人の知れる處なるが龍山新市街は留者中村井某、現議員渡邊某等は是非打つて出るの心算を成人に洩せりとかモノになれば結構ながら頃ろの暑さに而かも六十餘日の間を騷ぎ通しの草臥れ儲けなきは餘り結構でもあるまじ

▲京城手形交換高▼

八月	金高	枚數
三日	五八、三二一、九五	三一〇

▲治外法權▲

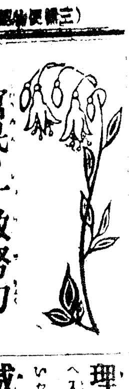
三日京城ホテルに開かれた統監副統監の歡迎會は中々盛んなものであつた、來會者は種々の階級を網羅して其數四百、會場は爲に狹からざるを得なかつた▲午後正四時花火一發と共に統監副統監は會場へ臨まれた、四百の來會者は靜肅なる態度を以て二人者を迎へた▲食卓に就いて暫くすると古城民長が歡迎の辭を述べ始めた、アーマタ今日も次第であるを續けるのかと此暑いのに手に冷汗を握つたものもあつたが、誰かの注意があつたものと見れて今日は次第であるをタツター一トツしか云はなかつた、▲古城の歡迎の辭に統監の答辭は勿体ない程であつた、併し鄕に入つては鄕に從へ、金貨も時には銅貨に通用させねばならぬ▲三浦理事官万歲の音頭はイツもながら滿堂を震撼した、アレデは會て心讀の惡かつた人とは誰も想像が附かぬ▲統監も副統監も今日から本當に京城の人になつた、サテ今後は何分宜敷願むと本官式を捨てて碎けた挨拶を諸人と交換されて居つた▲斯る挨拶中の奇觀は寺內統監と澤田地方局長との對照であつた、スペル君廿日鼠君を捉へて曰く君の名はギウ鼠と讀むかねと▲最後に記者は當日殘念に思つた事を述べる、夫は外でもない歡迎會の出席者が其三分の二が官吏で、民間の人士は僅か三分の一であつた事だ、クオリチーが劣る上に數まで一負けては迚も官吏に對抗は出來ぬ、嘘、嘘▲犬は五日人は一週間眠らぬと死を招くソウだ、而らば年中眠つて暮す人は長壽を保つ譯だ▲稲垣滿二郎の後家は今度高橋某と結婚するソウだ、美人に貞操は禁物と見ゆる。

▲天氣豫報 (自四日午後六時 至五日午後六時)
東南風時々雨
三 泪(一等氏) 最高温度 八八、五 最低温度 七三、〇

●江原道公私學校數 [illegible]
學校數左の如し
甲種公立普通學校 三
乙種公立普通學校 四
各種私立學校 五三
合計 六〇校

●助役不採用に決定 [illegible] 大村 [illegible]

今日の運動 [illegible]



官民の一致努力

▽民人の反省を促す

良藥は口に苦し强意見は都々逸程陽氣でなしとは小野の道風がトウ〳〵柳に飛び付いた蛙の一心に感心して手習を初めた時分から言ひ傳へ語り亞いたる諺なれば我輩が茲に申し上ぐることも乾度或る筋の痛癢に障るだらうが惡氣があつて言ふことでない丈けは前以て斷りをして置く、但し腹が立つから**怒**るのは**其方樣の御都合**で我輩の方では何うすることも出來ないのだ、況んや**統監**が其**歡迎會**に於ての**答辭**中に『私共の任務を果すに就ては直接間接諸君の御援助を願ふ次第である而して此の國を指導啓發するに就ては**官、民**を問はず先進國民として**品格**を保ち各從事する所に**忠實**に勤むやうにしたいと思ひます云々』とある、恕られても叱られても夫れが多少とも衆庶の爲めになる因となれば我輩は我輩の職務を忠實に勤めたことになるのである、とトテツもない長い冒頭を置いて書き出すのは今迄も度々申述べたことのある**公衆衛生**と云ふことに就てゞある、過日は彼の淸國人が**階上に便所**を設け此れを**公渠**に**排泄**して居ると云ふことを申上げて何んとか取締方法を講せられたいと言つた樣に覺へて居る、然るに今日猶ほ依然として何等の取締り方も現實されない如であるが如何な次第か承りたい、夫れは先づ夫れとして更らに此の惡事が**日韓人**間にも**行**はれて居る事である然るに何等の**取締**りもされないのは如何な御都合か此れ又承りたいものである、我輩の見る所に依ると**太平町**の**二葉**と云ふ小料理店も行つて居る如である、韓人側のは更らに猛烈で多く便所を公渠に面した方に寄せ溢れ流るゝに委してある我輩等か偶々の外出にも靜かならず目に付く夫れを職として**巡視**して御座る**人達**に**見**ぬ**道理**に**無**からう現に統監部次官々邸へ入口の所でも行つて居る、新聞が書いたから直ぐに取締るのは**官署**の**威嚴**に關するとでも思つて御座るとすれば大なる**間違**ひである、統監の所謂**官民合同**以て諸般の**進步改良**に努めんと云ふ趣旨に悖る譯だ、衛生當局者も自分の露て居ることに非を點たるゝと云ふのは讃も立たうが併し勸くべきは聞き改むべきは革められたいものである、と同時に**民人**の**反省**をも切望する

巳來浮氣不致候事

▽物騷な但し書なり

粹を生命の花柳界に色氣の薄い證文沙汰にごつた返した一埒をあらく〳〵ざつと御披露申さうに市中到る處に散在するチョイヨロ屋に蹴倒されて往來に草が生へてる京城は新町遊廓の**京城樓**に源氏名を**月子**と呼はるゝ女あり生れは盤が道ふ橫濱にて本名を松本かねと云ひ本年芳紀正に二十と四の女郎盛り相當に客もある中にも同遊廓内に住む**池田**某と互に深くなつた結果は定まりの**夫婦約束**、一、れ前の物は妾のもの私のものはれ前のもの但し稼業從事中は樓主のものなれば年期が明けての後の事たる事一、年期が明けたら夫婦となる事但し万一にも他の女を女房として居た際は夫れは離緣する事其代り私も無論情夫を持たぬ事一、だから可成速引く事但し金儲がある時には小使位はれ呉れなさる事と堅い〳〵鍋き冷しの缺き餅の如な**證文**を取り代した後は月子女郎下紐は解くことがあつても此れ斗りは解いた事がないと云ふ**シラミ紐**の中にクケ込んで**出臍**の**上**へ緊かりと**結**び暇さへあれば臍を撫で〳〵思ひ出してニコ〳〵笑つて居た迄は頗る無事であつた處此の頃に至り可愛しの池田某は佐藤某に誘はれて**淸月樓**の**春人**を**買**つたが病み附きとなり三度に二度迄は淸月へ押し登つて盛んに春人に惚けて居る餘計なことだが知らして行ると眞正に**餘斗**な**事**を**知**らせた者がある斯くと聞いた月子女郎は財布を便所の溜に落した程に驚き目を田舍芝居の月の出の如な色にし池田の**行動**を**監視**せしに噂に違はず現在同人が春人の許に浮れ込んだのを**見屆**けたるより起ても居ても居られればこそ直樣裏門より拔け出し淸月の裏へ回はり**春人**が**部屋**の樣子を覗きしに可愛い男は春人と**痴話**つてる**最中**なのに直やに躍り込んとしたるも生憎塀が高くて登れず其の儘スゴ〳〵引込した斯くとも知らぬ池田は翌夜登樓したるに餘りに月子の燒き方が烈しいので空恐ろしくなり**茶羅子**女郎に**見立替**すると言ひ出したるより京城樓は引つくり返る如な騷ぎとなりしも**結果仲裁**するものありて池田より下の如き證文を納るゝこととなりて元通りに落着したりとは芽出度い

證書

一明治四十三年八月二日限り決して浮氣不致候事

但し其の日の出來心は致方なき事

明治四十二年八月二日　前田某印

松本かね殿

と、但し書が少々物騷なり

長白山脈に虎狩

▽姫路發行鷺城新聞所報

久しく滿韓地方に在りし根本喜八郎と云へるは本年二月歸國以來有名なる韓國豆滿江の水源なる長白山の虎狩を企て北國、四國等に於て其の研究を重ねし結果いよ〳〵毒藥ストリキニーチを以て毒殺するに決し之れが同志を募る爲め大阪、神戸を經て姫路に入り驛前中島旅館に滯在して一日午前十一時頃鷺城新聞社を訪へり其の容貌を見るに色淺黑く身長六尺もあらんかと思はるゝ偉男兒にして身にはカーキー色詰襟の洋服を着け狩獵に用ゐる白の獨逸帽を被り長靴を穿ち水筒を肩にせしが同紙記者が面會するや帽を脫し溫容迫らざる態度にて語るやう長白山の裏に當る老爺嶺、大狐狸嶺等の大山脈には古來名物の猛虎を始め狐狸の類、栗鼠、貂、鼬等の棲むもの夥しく之れを捕獲するには韓人の下手な罠位にては到底駄目なれば自分は種々苦心せし末毒藥ストリキニーチを餌に混じ之れを以て退治し獲物は皮を目的に着手する筈にて各地にて同志を募りし處忽ち數十名の希望者ありしも商店の番頭失敗者等にては面白からず悉く斷りて後備將校頭家某及び土佐の獵師某の二名の申し込を受けしが猶は一名豫備か後備の將校にて相談對手になり得べきものを得んと當地に來り次第なり而して領家某は今明日の內に當地に來るべき筈にて出發は霜の來る十月末よりが狩獵の好期なればそれまでに一切の準備を整へ先づ元山に渡る筈なり自分は去る三十二年より本年まで滿韓地方に在りて名も根元喜八郎を云ふより同地方にて稱せし劉國淸と云ふが廣く知らるゝ位にして本國には餘り知巳は無きも滿韓にては多數の知巳あれば同地にて援助を得四五名の屈强なる韓人を人夫に雇ひて着手する筈なりと

箱師鼠忠外一人を捕ふ

△松浦憲兵特務の手柄

昨四日午前九時半頃龍山憲兵分隊憲兵特務松浦上等兵は所要ありて來城の爲め電車に乘りたるに乘客の內に年齡四十有餘の者と三十前後の者二人が人相並に目付きの怪しき所より職掌柄普通のものにあらずと注意なし居りたるに新舊龍山間にて乘替へと同時に怪しき二人の中一人は五十有餘の老婦人の懷に手を入れ、一人は四十前後の婦人の帶に手を入れ財布をスリ取らんとしたるに何れも失敗して目的を遂せず再び南大門通り二丁目に於て他人の懷に手を入れんとしたるを押取へ有無を言はせず南部署に引致し司法主任に引渡したるが四十有餘の一人は千葉縣人竹內忠次郎とて鼠忠の綽名あるスリにて一人は兵庫縣人小島定吉なる者にて何れも鐵道乘客若しくは電車乘客を相手に仕事を爲す惡漢なる由なるが目下取調中なれば詳細は後日報道す可し

谷川三藏判決言渡

▽或は檢事控訴せん

既報谷川三藏の私印私書僞造行使詐欺取財並に證書騙取事件の言渡は昨四日宣告ありたるが被告辯護人木尾辯護士出廷左の如く宣告ありたり被告谷川の犯罪中詐欺取財並に證書騙取事件は無罪とし私印私書僞造行使の點は懲役六箇月に處す旨言渡されたり

●コソドロの逮捕　佐賀縣人當時古市町十一番戶磯部茂吉(二八)は前科付曲物なるが今南部署刑事長野佐藤岸の三刑事の手に逮捕せられたる彼が罪狀を聞くに第一本年五月二十八日夜京城旭町一丁目泰永方の不在に乘じ表戶の開きある所より忍び入り柱に掛けある銀側時計一個(代八圓)を竊取し第二六月七日午後九時頃若草町一丁目江川方に忍び入り銘仙羽織一枚外一點(代七圓五十錢)第三六月十日頃午後十時過ぎ本町六丁目古物商靑木方に忍び入り銘仙羽織二枚(代八圓五十錢)を第四七月二日午後十一時頃長谷川町一丁目野口方店頭にありたる兵兒帶二筋(代十二圓五十錢)を第五七月五日午後十時半本町七丁目古物商陳內方店頭にありたる洋傘一本(代二圓)を第六七月二日頃旭町一丁目木炭商福塚方にて置時計一個(代三圓)を第七七月二十日午後十時頃古市町佐々木方にて女物單衣一枚(代二圓)を第八七月十四日頃吉野町一丁目秋田商會に忍入り浴衣一枚(代一圓)を第九行商用として一日金五錢の損害にて壹間龜之助より借受けたるアイスクリーム行商器を入質し第十六月十五日頃仁川に死者ありたれば會葬に必要ありと親友藤田熊吉を詐き單衣一枚帶一筋を借用し之を入質し第十一七月二十日午後九時頃本町七丁目田中方の不在に乘じ浴衣一枚(代二圓)を竊取し贓品は入質或は賣却し酒色に費消したること發覺したる爲なりと

●危かりし牛の命　仁川屠獸場に四日午前一韓人が一疋の大牛を曳き來り廿八圓にて賣買の約整ひしかば程經て屠殺せんと將に斧を振り上げたる一刹那一名の男轉ぶが如くに入り來り右牛を見るやウヮの牛だやと抱き附きし其場の有樣に屠獸場員は驚張り譯が判らず狐に騙されし體宜しくにて只だ眼をパチ附かするばかりなりしが斯くては何時まで經ちても分らぬ業と其旨京町派出所に屆出でしかば警官現場に出張して取調べたるに前記牛は豐德郡新村居住朴某の所有に係る者なりしが同村の崔明朝(二二)と云ふが一昨日窃かに盜み遙々仁川に曳き來りて轉賣したるものと判明せしかば直に犯人の崔を取押へ本署に引致して取調中なりと

●西署の健康診斷　京城に於ける料理屋飲食店の藝妓酌婦仲居等に對しては本月より每週火曜日に健康診斷を行ふ事になりしが西部署管內に於て今回實行したる結果藝妓十二名酌婦九十三名仲居五十七人計百六十二人の內有毒者二人にして未だ診斷を受けざる者十餘人なり

●殺傷事件の判決　仁川公園下殺傷事件の加害者桐川庄市事本名切川勝藏は懲役二年六月に同じく賭博傷害犯人纈庭正六は懲役二月罰金廿圓に四日京城地方裁判所仁川支部にて公判開廷判決言渡しありたり

●女房の行衛不明　壽町二丁目荒木老松內緣の妻山本ますは七月二十三日夫荒木が不在中實印並に委任狀一通を携帶して家出し行衛不明となりしに荒木は大切な戀女房が居らぬとて死に者狂ひになり八方搜查するも明らぬとて其筋に搜査方願出たりと

●不良飲食物投棄　西部署管內に於て去月十五日以降不良飲食物の處分を爲したる分はラムネ二十五本及び果物七百個なりと

●仁川敷島たより　仁川敷島遊廓一山支店より小夏(二二)と云ふが現はれしが生れは愛知縣一宮町にて十六の頃より橫須賀吾妻屋にて仲居奉公を勤め居たるものなりと▲日進樓の圓助は宜々駒二と云へる源氏名にて大膽不敵にも仁川券番より打つて出でたり▲仁川遊廓のれ職仁川敷島遊廓に於ける本月のれ職娼妓は日進の次郎、朝日の吉彌、一山の松助、吾妻の羅蝎、敷島の胡蝶、第三朝日の朝鶴なりと云へり

目と耳

▲浪花館　廣八一座五日の代り番組　御祝儀寶の入船(入登)朝顏日記宿屋の段(廣吉)信仰記上かんやの段(總濱)忠臣藏三段目(此重)日蓮記勸作住家の段(此千代)增補菅原松王下屋敷の段(仙寨)三勝半七酒屋の段(隅照)岸姬松三段目(越春)伊賀越六ッ目沼津里の段(廣八)大切たちめ久松野崎村の段(總掛合)三味線豐澤仙平

▲壽座　五日の代り狂言は『敵討粹木の龜山』にして役割左の如し　高松彌十郎、美木十左衞門、れ雪の兄(美高)中野藤兵衞(尾之吉)赤堀水右衞門、れ倉の父又四郎、遊女屋亭主才助(淺吉)石井兵衞(菊枝)兵衞の妻れらい、神尾兵次、飯田由兵衞(福司)遊女小夜絹、藤兵衞妻れ雪、百姓川越(花尾)水右衞門弟半次郎、石井兵衞重左衞門侍女れ倉、醫者山名一齋(壽々子)醫士(福吉)久保田三藏、諸士(金福)坊主珍才、中野藤兵衞の子、れつね美代丸)川越餅屋(花子)藤兵衞の子多吉(君子)源氏節出語り(美家登司)

平民文庫

▲法權子にもの申す『統監披露宴の盛況は當日の京城日報に依つて殆んど餘す所なく報道された記者は同紙の記事に多く加ふるを要せぬと思ふ』とは何の事だ僕の如に新報だけしか見ぬものは日報に何が書いてあつたか分らぬ、記者は新報を讀む者は又同時に日報を讀む者と思ふて居るのか、說あらば聞かん(天般)▲法權子一本參られたナ、と斗りでは濟むまい(小僧)▲早起西大門外金華園に散策を試む曉風徐々として胸襟を拂ひ眺望絕佳漢陽の全市一眸の下に在り加ふるに庭園の百花其の艶を競ひ殊に珍奇なる朝顏の群を拔きて咲き躍れる恰も仙境にあるの感あり同好の士は一度杖を同園に曳き給へ(花在)▲一日も早く電車線路が復線になつて貰いたいものだがモウ何川位したら出來上るのか又電車も少々奇麗になるのですか又東京邊の如く何處迄も五錢と云ふ風になるのですか文庫子のれ答へを乞ふ(御尋生)▲其の會社へ聞き合はせた方が早く判る拙者の考へでは今に無賃で乘せる如になると思ふ(編)▲長谷川町の兵營の周圍にあつた淫賣屋は移轉せしめられた如だ結構なことである(通行人)▲廣告を見ると誠に便利重寶らしい蠅取紙夫れを買つてる家で蠅取瓶を用ゐて居つた紺屋の白袴笠賣りの笠とは隨分聞いては居たが一寸首の傾いた處は水樂町三丁目の雜貨屋(仁作)▲門外御成座の明治的浪花節と云ふ頗る振つた武士道鼓吹屋の看板が恐ろしく恐ろしい讀み物が是某が伊庭某に殺されたとか殺されるとか云ふ所で此れも恐ろしいイヤ恐ろしい世ではある哩(への字)▲甜瓜の全盛期に入て甜瓜喧嘩が殖ゑて來た(テケテ)

廣告

京城居留民告諭第二號

本年四月告諭第一號ヲ以テ居留民團稅其ノ他ノ公課納入ニ關シ納期ヲ愆ラサル樣特ニ諭告スル處アリシモ尙本年度第一期諸稅及第二期汚物掃除割ノ滯納者尠ナカラス目下整理上督促狀發付ノ準備中ナルヲ以テ右未納者ハ此ノ際速カニ納付セラルヘシ

追テ納稅告知書ヲ紛失シ若クハ納稅義務發生者ニシテ未タ納稅告知書ノ配付ヲ受ケサル者ハ其ノ旨至急申出請求セラレ度シ

明治四十三年八月四日

京城居留民團民長　古城管堂

●天氣豫報（自四日午後六時至五日午後六時）
東南風晴後曇
最高溫度 八八、五
最低溫度 七三、〇